



まる ○福連携2022

一般社団法人福祉システム北海道

高橋 銀司代表理事

異業種との対話から福祉を探る

□連載1□

■はじめに

今年で時期連載3年目となる「○福連携」でございます。これまでたくさんのゲストの方にお世話になるとともに、読者の方からの反響もあり、連携の大切さを改めて感じております。今回も全5回、ラジオパーソナリティー、写真整理アドバイザー、不動産業、ガソリンスタンド店員、牧師の方々とお話しさせていただきました。また今年も「その業種にある福祉」を探り、学んでいきたいと思っております。

ラジオパーソナリティー 金子 耕式さん



かねこ・こうじ 1956年、横浜市出身。慶応大卒業後、F E B C東京支社にアナウンサーとして入社。サンフランシスコ支社に移り、日本向け短波放送番組を担当。エイブル語学研究社代表取締役、洗足学園中学高等学校英語科講師を経て、2007年からラジオ番組「金子耕式のファミリー・トーク」パーソナリティーとして活躍中。

うになるか」と悩んでいる人はたくさんいます。以前、上の子を愛せないというお母さんがいました。子どもを育てる時に、もちろん相性ってあるかもしれない、しかし、その子にとってベストなことを、時間をかけてしてあげるといことは、やろうと思えばできることです。愛情は感情ではなく、意思なんです。

例えば介護をしていて、いくら介護しても機嫌が悪くて、平気で自分のことを罵倒(ばとう)してくるようなおじいちゃんがいると、誰だって嫌だと思ってしまうんです。それでもその人を介護するのは、その人に良いことをしようと思うからでしょう。これは意思の問題だと思うんです。だから介護というのは、その人を好きになることではなく、その人にとって何が必要で、何が良いことか、意思をもって続けることだと思います。介護の仕事をするにはそのような信念が必要だろうと思います。介護の仕事が好きだからという理由だけでは、できないと思います。

ユマニチュードという介護の手法、特に認知症のお年寄りに接するときの方法があります。ご存じかと思いますが、相手が認知症の人であっても普通の人と変わらない、人間らしい態度で接し続けるということですね。具体的に言うと、普通の人と同じように、まずドアをノックして、ちゃんと気づいてもらってからドアを開けて挨拶(あいさつ)をする、そして近づいていったときにその人の目線の高さまで、自分が身を低くして同じ目線になるようにする、それによって、上から目線ではなくて、本当にお友達のように、まさに他人ではなく、大切な人として接するということです。

これを続けていくと、今までイライラしていたお年寄りが、その人が来るとニコニコするようになる、これは、介護の世界も、その他全ての人間関係にもあてはまることだと思います。

私は講演会に呼んでいただいたときに、会場には控室っていうのがあって、講師はここでお待ちくださいと言われるんですが、私は「すみま

たかはし・ぎんじ 1987年、小清水町出身。北海道介護福祉学校、北海道医療大卒業後、札幌市にある障害福祉事業所に勤めながら、北星学園大大学院修士課程修了(社会福祉学)。オホーツク社会福祉専門学校専任教員を経て、2018年4月に一般社団法人を設立。22年4月からは日本医療大総合福祉学部介護福祉マネジメント学科助教としても活動している。介護福祉士、社会福祉士。

せん、できたら入り口に立たせてください」と言って、よく講演会場の入り口に立つんです。参加者がいらっしやったらその方たちに、「よくいらっしやいました、金子です」と挨拶するんです。そうすると、通り過ぎた人がびっくりして「ご本人ですか」みたいな話になるんです。私はそれをごく自然だと思っているんですよ。私のために、忙しい時間をわざわざ割いて来てくださったのだから、私としては握手をして大歓迎したいんです。だから私は戸口に立つんです。そうすると、講演を聞いてくださる時も、本当に親しい関係として熱心に聞いてくれます。それが私のポリシーなんです。自分の仕事で大切にしていることは「人を大切にする、隣人を助ける」ということだからです。

●人前で講演されるとき、何か気をつけていること、例えば緊張しない方法や意識されていることなどはありますか。

私の場合、時には500人、600人など多くの人の前で話をします。ですから、逆に、人数が少ない時に緊張するかもしれないですね(笑)。「あれ、何か私は間違ったことをしたのかな」とか「うまく告知できていなかったかな」とか「どうして今日は集まってくれないんだろうか」とちょっとハラハラします。

逆に人が集まっていると「ああ良かったな」と思います。もちろん一般的に言われる「人前で話すときの緊張」というのは、最初の頃、若い頃



はありましたよ。今はまったくないです。場数を増やすって言うことですかね。

もう一つは、自分がどう見られるかということを考えているうちは緊張すると思います。自分を良く見せたいと思っていたら、緊張します。ちょっと失敗したら、ダメだった、と思ってしまう。もちろん、聞いた人がわかりやすいようにきちんとまとめられる、ってことは大事ですが、それは回数をこなすことでどんどん上達していきます。私の場合、とにかく人の役に立つ話をしたいと思っているだけです。そのために緊張する必要はないわけで、別に私はみんなが注目しているスターではないので、自分を良く見せる必要はないんですよ。

●ラジオパーソナリティーのお仕事をされる前はもともとアナウンサーをしていたとうかがいしましたが、アナウンサーになったきっかけは？

中学生の時からラジオが大好きで、当時ラジオの深夜放送を、若者が夢中になって聞いていた世代なんです。今ではタレントがラジオパーソナリティーをしていることが多いですが、その当時はアナウンサーがラジオのパーソナリティーをしていたんです。話がとても面白くて、深く、人生についてもいろいろ語ってくれるし、(パーソナリティーは)憧(あこが)れる職業でした。

自分自身、もともとは口下手だったので、将来こんな風に人を惹(ひ)きつけるように話ができたらいいなと思い、高校生になったときに、真っ先に放送部に入りました。

放送局に入局するきっかけになったのは、放送局がアナウンサーを募集しているという新聞の記事を見た知人が、なぜか私のことを思い出してくれ、私に電話をくれたんです。私は、とにかく放送局に話を聞きに行き、担当者と話をしているうちに、「あなたはもう内定しました」と言われたんです。そういうわけで、私の場合は本当にラジオの世界が好きで、アナウンサーに憧れて、幸いにも、放送局に入ることになりました。

●仕事をする上で大切にしていることを教えてください。

私が人生の中で出会っていく人の中で、困っている人がたくさんいる、その人たちを助けることが何よりも大事なことだと思うんです。自分にある能力でできることを考えると、私はやはりラジオでお話ししたり、講演会で話したりすることです。今の世の中、家族や家庭が崩壊して苦しんでいる人たちがたくさんいます。だから私は番組を通して、そのような家族や家庭を励まし、アドバイスし、守っていきたいと考えています。これが、今の仕事をしている理由ですけれども、その原点で大切にしていることは「隣人を愛さなければいけない」ということです。

●ラジオパーソナリティーの仕事をしていて、福祉や介護を感じる時があれば教えてください。

今、私がしている家族や家庭のための活動で、番組や講演会に来てくれている人たちは、実はある意味では、お手伝いを必要としている人たちだと思うんです。「子育てについて、どうしたら自信をもって子どもに愛情注いで、できるよ

「○福連携プラス」YouTube配信中

高橋代表理事の連載する「○福連携」で過去に紹介した、異業種との対話を視聴できる動画チャンネル「○福連携プラス」がYouTubeで配信中。紙面に掲載し切れなかった対話の様子を15~20分前後にまとめている。視聴QRコードはコチラ。金子さん動画は2023年1月10日予定。



□一般社団法人福祉システム北海道

▶ホームページ <https://fukushi-sh.net/> ▶問い合わせ先 info@fukushi-sh.net